

2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [神戸大学附属中等教育学校] 担当教諭名 [岩見 理華・興津 紀子・柴田 美帆子]
 (3年生(中3)・4年生(高1)生徒会 Global Career Committee ユネスコスクールアートマイルチーム 22名)
 相手国・地域 [インドネシア]
 海外学校名 [SMA Labschool Cibubur] 担当教諭名 [Kelli Mandalina / Tri Purba Dharmastuti]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
	放課後等の課外活動	自己紹介動画制作, テレビ会議, テーマ学習, 構図の検討, 壁画の制作	30

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	平和
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	近代化の中にも伝統的な文化を大切にしている日本は「伝統文化との共存」、多くの島からなり、それぞれの島の文化や宗教が異なるインドネシアは「多様性からの統一」をコンセプトに「平和」を表現しました。また、壁画には両国の平和のシンボルと文化(建物, 衣装, 自然など)をあしらいました。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の参加生徒が活動をリードして制作作業をスムーズに進めることができた。 ・参加生徒が共通の目的を持つ本プロジェクトの活動を通して学年を越えた協力関係を築くことができた。 ・日本の伝統文化と相手国の文化について理解が深まった。 ・同じ「平和」というテーマについても国によって捉え方が違うという新しい気づきがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時差は 2 時間で問題なかったが、学校行事や考査日程等の関係でお互いの学校が活動できる時間が限られており、テレビ会議など直接交流の機会が1度しか持てなかった。 ・相手校は制作風景を撮影した動画を送ってくれたりしたが、本校はできなかった。SNS などを使って生徒同士もっと活発に交流できればよいと思った。 ・担当の先生は主にスマートフォンでメールなどをされているのでフォーラムが機能しなかった。連絡方法について検討する必要があると感じた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
海外の学校との交流を初めて経験する生徒が多かったので、テレビ会議で直接つながる経験をする事によって、異文化理解に対する意欲が高まった。また、相手校の生徒と話し合いながら構図を決定していくというプロセスを通して、相手の意見を尊重しながら協調していくことの大切さについて学ぶことができた。	群島からなるインドネシアの文化の多様性、それを背景とする「多様性からの統一」という「平和」のコンセプトを説明していただき、生徒たちと同様に「平和」に対する捉え方の違いを実感することができた。そのような考え方の違いがそれぞれの国の平和のシンボルとともに壁画に表現することができてよかったと思う。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月 10月	相手校から自己紹介の動画を送ってもらい、自分たちも動画を撮影して相手校に送った。 相手校の教員と生徒と本校教員で打ち合わせのテレビ会議を行った。	<生徒の感想> 7月のセミナーに参加して作品を見てから今後の活動が楽しみだった。 壁画の構図や色使いで相手が嫌な思いをすることもあと聞き、思いやりの心を大切に活動していこうと思った。	放課後3
共有 テーマ学習	11月	参加生徒は3年生の沖縄の修学旅行で平和について学習していた。テレビ会議でインドネシアから壁画のコンセプトについて説明があった。日本側は「伝統文化との共存」を平和のコンセプトにしようということになり、伝統文化について調べ学習を行った。	<生徒の感想> 日本文化や相手国の文化について学ぶことができた。特に絵のコンセプトについて相手校の人に説明するために日本文化について調べたことはよかった。	打ち合わせ 1 (ESD) (修学旅行)
融合 メッセージ 壁画デザイン	12月	11月のテレビ会議でインドネシア側から提案された構図をもとに壁画に描くもの、また相手校にも描いてもらうものを決定した。	<生徒の感想> インドネシアについてより知ることができたとし、後輩とも活動することができたとくさんの人とコミュニケーションをとれる良い機会になったと思う。	放課後4
創造 壁画制作	12月	プロジェクターを使って下絵を描き、美術科教員の指導を受けながら色付け作業を行った。	<生徒の感想> 他の人と協力する事の大切さ、センスだけではないのが「アート」だと感じる事ができた。	放課後20
評価 振り返り 自己評価	3月	到着した壁画の鑑賞 写真撮影 アンケート・感想文記入 全校集会での発表(4/13 予定)	<生徒の感想> 皆で1つの物を創りあげる楽しさを知ることができた。 達成感はとても大きかった。苦労した場面や支え合っていた場面は数多くあると思う。	放課後 全校集会 (予定) 2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	日本の「平和」を表現する際に、「伝統文化との共存」というコンセプトを打ち出し、日本の伝統文化について様々な視点から考察することができた。
異文化の理解	A	5	相手校からの説明から多くの島からなり、島ごとに文化や宗教が異なるインドネシアについて理解が深まった。そして「平和」についても「多様性からの統一」という異なった考え方をしているということに新しい気づきがあった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	相手校に送る自己紹介動画の制作やテレビ会議には自分たちのメッセージが伝わるように積極的に取り組んでいた。伝わったときの喜びや伝わらなかったときの悔しかった体験により英語学習に対する意欲も高まった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	5	日本の伝統文化について、服装や建物、平和のシンボル等について役割分担をしてインターネットも活用しながら調べ学習に意欲的に取り組めた。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	3	有志メンバーでの活動だったので、校内では約半年間の活動を通して学年やクラスを越えて良好な関係を築くことができた。しかしながら、相手校とは交流機会も少なく、友達になるまでには至らなかった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	テーマに関する調べ学習や、下絵や色塗り作業等、参加生徒がそれぞれ自分の役割を責任をもって果たすことができた。
学習を追究する意欲	A	4	海外の学校との直接交流がはじめてであった生徒も多く、共同壁画制作を通して異文化理解や英語学習に対する意欲が高まった。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	5	動画制作やテレビ会議では、フリップやホワイトボードを使うなど、英語力をカバーするためのメッセージの伝え方を工夫していた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	B	4	最後に予定していた完成壁画の説明を相手校に送ってもらうテレビ会議が壁画を送ってもらう前にできなかった。4月13日の全校集会で全校生にも鑑賞してもらう予定である。